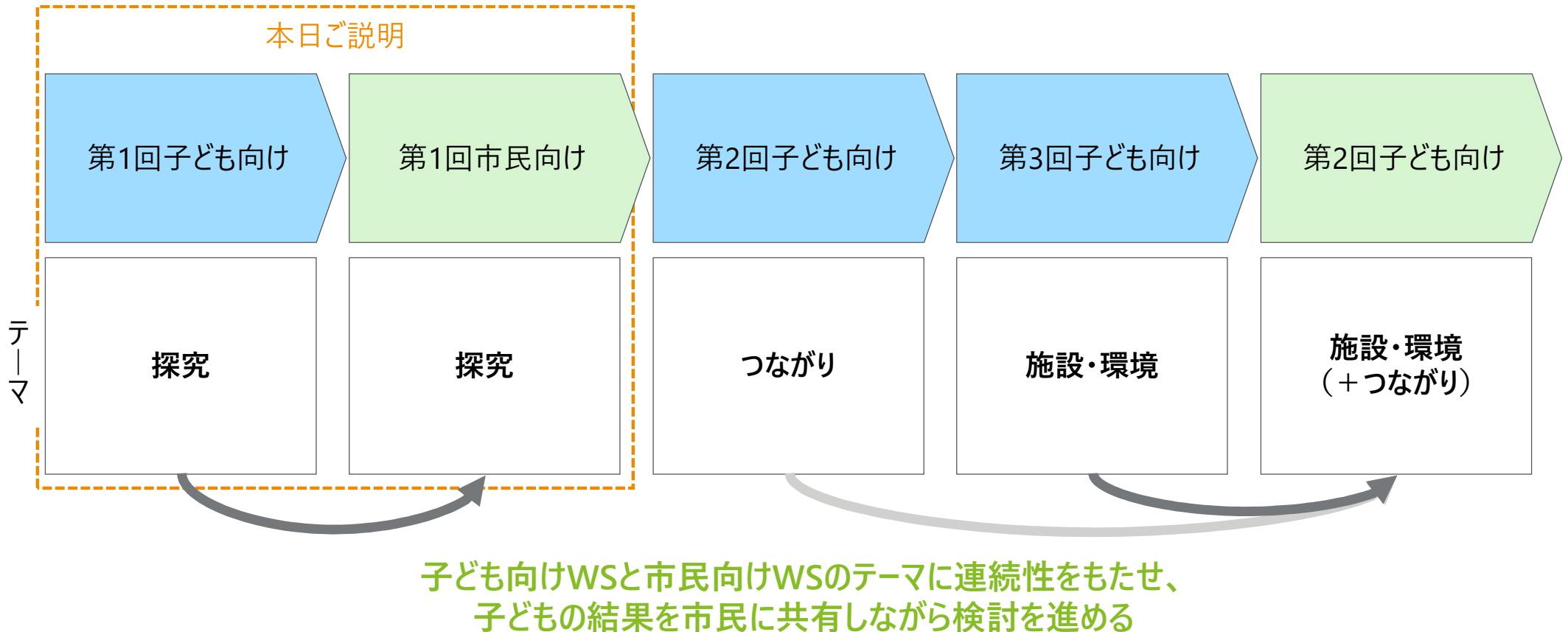


子どもや市民の意見をうかがいながら、たかいし学校創生基本構想でめざす学校の姿を具体化していくため、全5回のワークショップ(WS)を予定しています

WSの全体像



第1回子ども向けWSのテーマは「探求」とし、 子どもの「もっと知りたいこと、やってみたいこと」から学びを深める方法を考えました

第1回子ども向けWSのテーマ等

第1回子ども向けWSの テーマ・目的

■ テーマ

探究（挑戦と実践）

■ 目的

子どもが「もっと知りたいこと、やってみたいこと」という自らの興味・関心を起点に、学びを深める方法を考えながら、将来の学校で実現したい学びの姿を検討する

第1回子ども向けWSの 進め方

ワーク① (個人)

■ 好きなことを教えて

各自で「好きなこと」（勉強でも遊びでも何でも）を書き出す

ワーク② (個人)

■ もっと知りたいことを考えよう

各自で「好きなこと」について「もっと知りたい、やってみたい」ことを深掘りする
グループで共通のテーマを見つける

ワーク③ (グループ)

■ どうやってやる？

共通のテーマについて「どこで・誰と・何する」という切り口から深掘り方法を具体化する

ワーク④ (グループ)

■ こんな学校あったらいいな

「どこで・誰と・何する」を「学校内・学校外でできること」に振り分け、最後に「〇〇な学校」という名前をつける

Aグループの結果

ワーク①（個人）

■ 好きなこと

- ✓ 歴史
- ✓ 運動（体育、体そう、体をうごかす、フットサル）
- ✓ ゲームをする
- ✓ 人と話す（政治のこと、おしゃべりをする） など

ワーク②（個人）

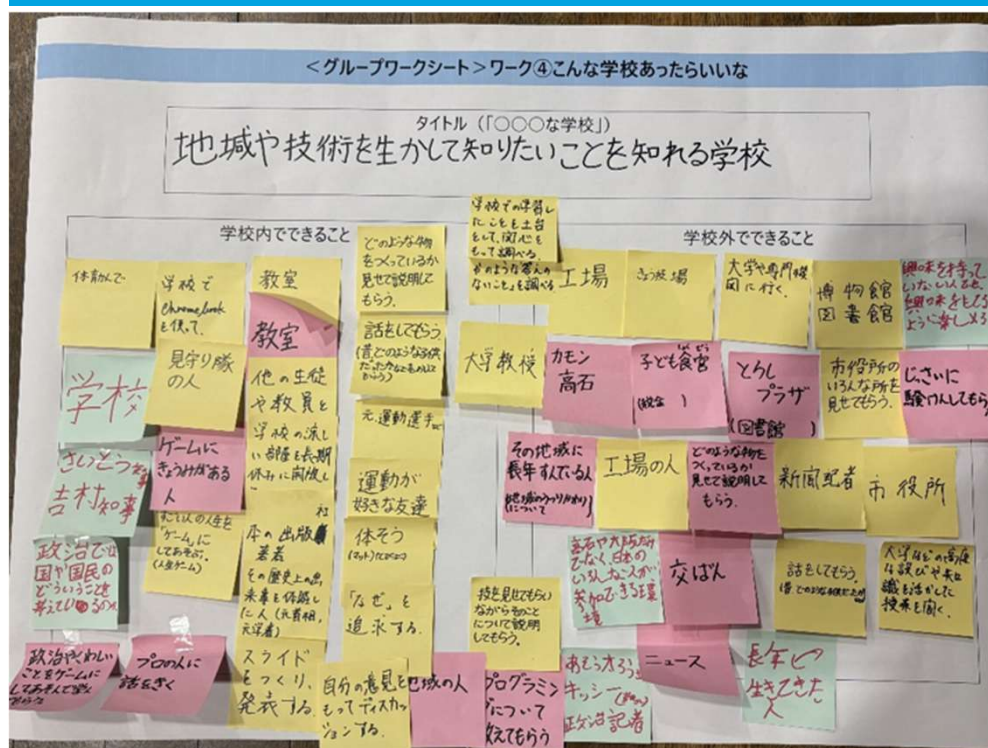
■ もっと知りたいこと

- ✓ 小学校や中学校の社会で習わない内容
- ✓ 体そう選手は子供のころはどのようにすごしていた？
- ✓ 一番楽しいゲームってなにか
- ✓ なんでわかい人の政治ばなれへの対さくしないの？ など

■ 共通テーマ

- ✓ グループ全員の知りたいこと・やりたいことができる学校

ワーク③④（グループ）



こんな学校あったらいいな

“地域や技術を生かして知りたいことを知れる学校”

子どもそれぞれの多様な興味を深めるために、

- ✓ 地域の人（見守り隊の人）
- ✓ 専門的な知識を持つ人（大学教授、新聞記者、政治家、工場の人、元運動選手、プロの人）
- ✓ 地域の施設（市役所、カモン高石、とろしプラザ）などを活用できる学校が提案されました

Bグループの結果

ワーク①（個人）

■ 好きなこと

- ✓ ゲーム（PS5、スイッチ、ipad、サッカー、野球）
- ✓ 学校で習う科目（理科類、国語、歴史）
- ✓ ピアノ、バイオリン
- ✓ アニメ、漫画
- ✓ 推し活
- ✓ ねこ など

ワーク②（個人）

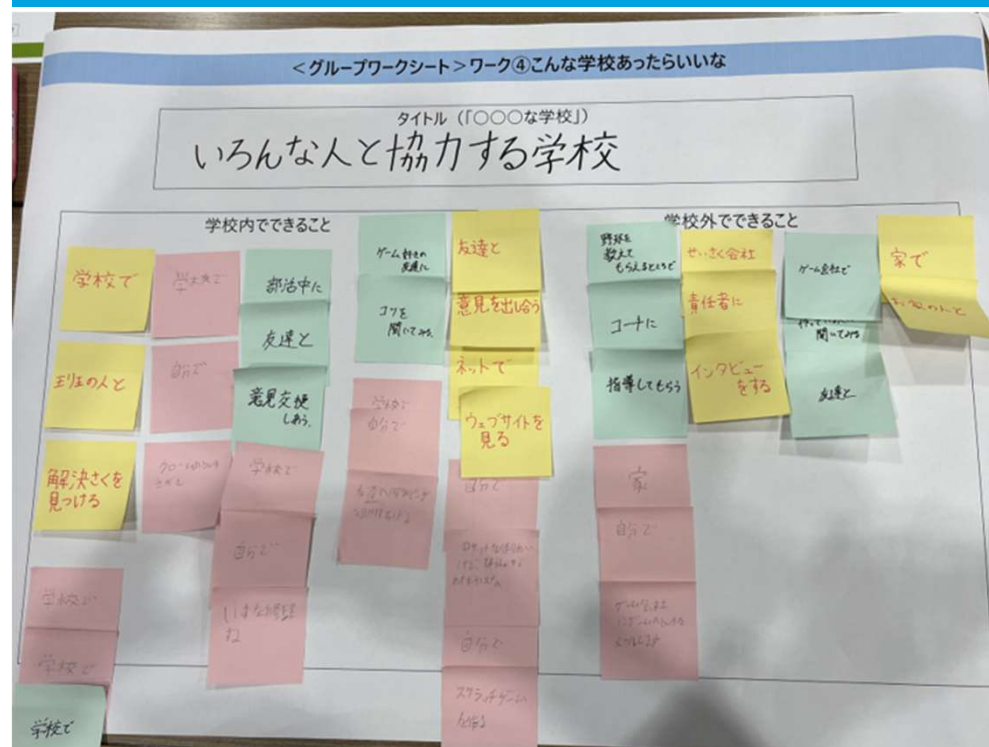
■ もっと知りたいこと

- ✓ なんでMessiは一年度で91ゴールできたのか
- ✓ ipadのねだんがあがっている理由
- ✓ スポーツをすることは体に良いことなのか など

■ 共通テーマ

- ✓ ゲーム（デジタルゲーム、スポーツを含む）

ワーク③④（グループ）



こんな学校あったらいいな
“いろんな人と協力する学校”

ゲームという共通テーマをもとに

- ✓ 友達、班の人
- ✓ コーチ
- ✓ せいさく会社の責任者 など

多様な人と協力しながら学ぶ学校が提案されました

cグループの結果

ワーク①（個人）

■ 好きなこと

- ✓ 好きな芸能人の曲を聞く、見る（ミセス、M!LK）
- ✓ ゲーム
- ✓ アニメを見る
- ✓ 食べる（ラーメン）
- ✓ 友達と遊ぶ
- ✓ クリスマス、おたんじょう日、夏休み など

ワーク②（個人）

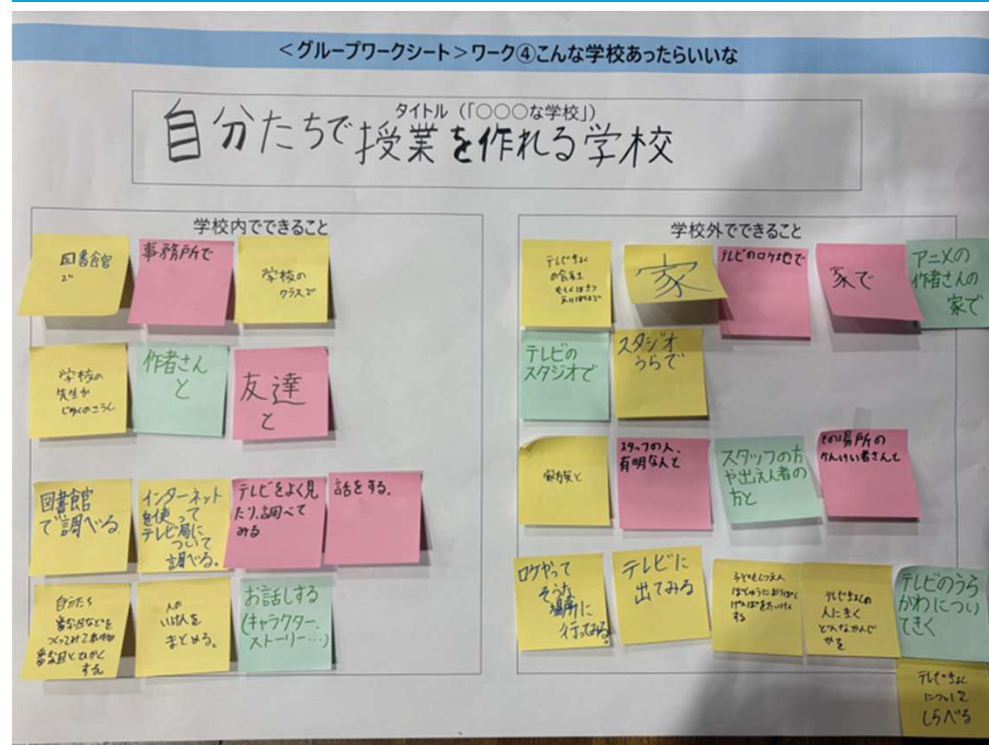
■ もっと知りたいこと

- ✓ ドラマ、番組、ミュージックビデオをどうっているか
- ✓ アニメの声ゆうさんの決め方
- ✓ 映画などでスクリーンに映し出されるしくみ
- ✓ 一番おいしいとんこつラーメンの店を知りたい など

■ 共通テーマ

- ✓ テレビ

ワーク③④（グループ）



こんな学校あったらいいな
 “自分たちで授業を作れる学校”

テレビをテーマに、

- ✓ 調べる
- ✓ 企画する
- ✓ 実際に出演する、発信する など

活動を通じて、自ら学びをつくる学校が提案されました

第1回子ども向けWSでは、学校外の人材・場所・活動を活用する可能性がうかがえ、これからの学校では「みんなで意見を出し合える」という要望も多く寄せられました

第1回子ども向けWSから見たこと



第1回WSでの子どもの声から見たこと

自らの興味・関心を起点に、学びを深める方法として

- ✓ 自分（たち）で調べる
- ✓ 他者と話し合う
- ✓ 実際にやってみる
- ✓ 自分（たち）で企画する
- ✓ 発表する

といった活動があげられました。

また、上記の活動に際して

- ✓ 多様な立場の人と意見交換をする
- ✓ 実際に現場に赴く

といった**学校外の人材や場所・活動を活用することへの可能性**がうかがえました



第1回WS後の感想から見たこと

WS後の感想（「どんな学校になると嬉しいですか」）には、

- ✓ 意見を出し合いたい
- ✓ もっとみんなが発言していける学校
- ✓ みんなの好きなもの、意見を話したりできる学校
- ✓ みんなの意見、考えが実現できるような学校

といった**自分だけでなくみんなで意見を出し合う**という感想が多く寄せられました。



第1回市民向けWSのテーマも「探求」とし、 子どもの声を踏まえながら「もっと知りたい・やってみたい」を実現する方法を考えました

第1回市民向けWSのテーマ等

第1回市民向けWSの テーマ・目的	■ テーマ 探究（挑戦と実践） ■ 目的 子どもの声への共感や気づきを整理したうえで、子どもの「もっと知りたい、やってみたい」を実現する方法を考える								
第1回市民向けWSの 進め方	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="528 708 857 890">導入</td><td data-bbox="857 708 2130 890"> ■ 子どもの声を知ろう 第1回子ども向けWSの動画を視聴 </td></tr> <tr> <td data-bbox="528 890 857 1072">ワーク①</td><td data-bbox="857 890 2130 1072"> ■ 共感・意外を話そう 第1回子ども向けWSの動画から、共感したこと、意外だったこと(新しい発見だったこと)を話し合う </td></tr> <tr> <td data-bbox="528 1072 857 1254">ワーク②</td><td data-bbox="857 1072 2130 1254"> ■ 子どものやりたいことを実現するには 「子どもの『もっと知りたい、やってみたい』を実現するには」をテーマに、「どこで・誰と・何する」という切り口で実現方法を話し合う </td></tr> <tr> <td data-bbox="528 1254 857 1436">まとめ</td><td data-bbox="857 1254 2130 1436"> ■ 全体共有 グループワークの結果や感想を発表 </td></tr> </table>	導入	■ 子どもの声を知ろう 第1回子ども向けWSの動画を視聴	ワーク①	■ 共感・意外を話そう 第1回子ども向けWSの動画から、共感したこと、意外だったこと(新しい発見だったこと)を話し合う	ワーク②	■ 子どものやりたいことを実現するには 「子どもの『もっと知りたい、やってみたい』を実現するには」をテーマに、「どこで・誰と・何する」という切り口で実現方法を話し合う	まとめ	■ 全体共有 グループワークの結果や感想を発表
導入	■ 子どもの声を知ろう 第1回子ども向けWSの動画を視聴								
ワーク①	■ 共感・意外を話そう 第1回子ども向けWSの動画から、共感したこと、意外だったこと(新しい発見だったこと)を話し合う								
ワーク②	■ 子どものやりたいことを実現するには 「子どもの『もっと知りたい、やってみたい』を実現するには」をテーマに、「どこで・誰と・何する」という切り口で実現方法を話し合う								
まとめ	■ 全体共有 グループワークの結果や感想を発表								

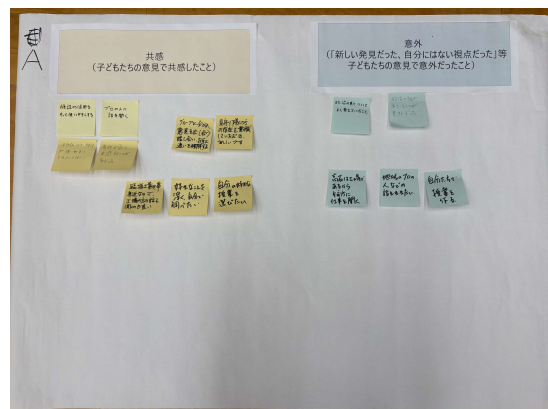
子どもの声を否定するのではなく、主体的な学びを前向きに受けとめ、どのように実現していくかという視点で話し合いが行われました

ワーク①「共感・意外を話そう」の結果

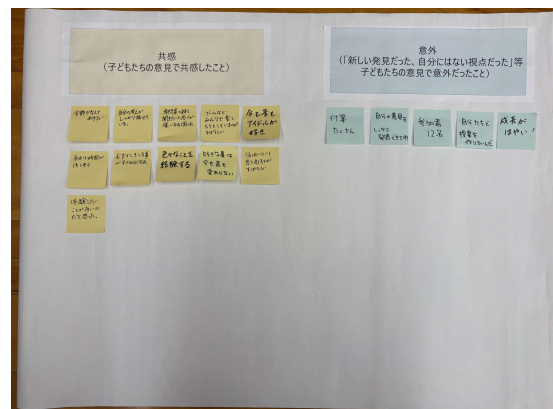
第1回子ども向けWSの動画を見て



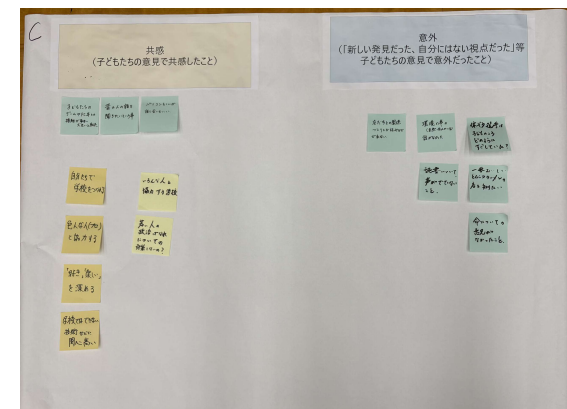
Aグループ



Bグループ



Cグループ



子どもの学びを支える存在は、学校の中だけにあるのではなく、地域社会の中にも存在しているという認識がうかがえました

ワーク②「子どものやりたいことを実現するには」の結果

子どものやりたいことを実現するには

 どこで	 誰と	 何する
✓ 企業 ✓ 工場 ✓ 公共施設 ✓ 漁港 ✓ 農園 など	✓ 見守り隊 ✓ 地元企業の方 ✓ 工場関係者 ✓ 消防士 ✓ 警察官 ✓ 漁師 ✓ 地域の先輩 ✓ 高石出身者 ✓ 専門家 など	✓ 話を聞く ✓ 相談する ✓ 体験する ✓ 一緒に活動する ✓ 現場を見学する など

学校と地域とのつながりの重要性だけでなく、地域の中には子どもの学びや成長を支える主体となり得る人材が存在していることも確認できました

第1回市民向けWSから見たこと

1

子どもの主体的な学びへの共感 (主にワーク①から)

- 子どもの「もっと知りたい、やってみたい」という思いに共感する意見、肯定的に受け止める意見が多く見られた

2

学びを支える多様な資源の存在 (主にワーク②から)

- 地域の人材や企業、施設、経験など、学校の外にも子どもの学びを支える様々な資源があることが改めて確認された

3

学校と地域が協働する可能性 (全体を通じて)

- 見守り活動をされている参加者から、「子ども向けWSの付せんに『見守り隊の人』という意見があり、自分たちの活動が子どもたちに認識されていることがうれしかった」という発言があった
 - 地域の中には子どもの成長に関わることに、やりがいや喜びを感じている方々もいらっしゃるとうかがえた
- WSでは「地域の人から学ぶ、地域の仕事を知る、地域の経験者と交流する」といった意見も多く出された
 - ワークショップ全体を通して、**学校と地域とのつながりの重要性だけでなく、地域の中には子どもたちの学びや成長を支える主体となり得る人材が存在していることも確認できた**